

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	つむぎ落合（放課後等デイサービス）			
○保護者評価実施期間	令和7年9月1日 ～ 令和7年9月19日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	52	(回答者数)	20
○従業者評価実施期間	令和7年9月3日 ～ 令和7年9月16日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年10月31日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員間の情報共有が日常的に行われており、連携体制が整っている	・職員の動きを運営表で確認しながら、療育の円滑な実施に向けてチームで連携を図っている。 ・申し送りなどを通じて得られたご家庭や学校での様子については、毎日の連絡会で職員間で情報共有を行っている。	・全職員が同じ情報を把握できるよう、連絡会に参加できなかった職員には必要に応じて口頭で丁寧に説明していく ・運営上の課題や対応上の不備については、連絡会等を通じて情報を共有し、改善に向けた取り組みを行っていく
2	整理整頓を習慣化し、衛生管理にも配慮している	・清掃・整理・配置などを継続的におこなっている ・利用者様が安心して過ごせる環境を整えている	・こどもが安心して過ごせる環境づくりのために、定期的に支援会議等を通じて環境の構造化や設定の見直し、改善を図る
3	保護者様と情報共有の時間を大切にしている	・課題の取り組みについて具体的に説明を行っている ・家庭や学校での変化や兆しを見逃さないよう、定期的な確認を行っている	・普段と少しでも違う様子が見られた時には事業所での様子も詳しく伝えご家族のお話を聞き情報共有を行い連携を行っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	課題の設定がパターン化している	・繰り返し行うことで定着や自信につながることを目的としている課題もあり、定型化していた。	・他の職員の視点や経験を取り入れ、課題設定の幅を広げる ・本人の興味・関心を踏まえた課題の見直しを行う ・文献を参考にして課題選定を行っていく
2	多様なニーズに対して、専門的な対応力が不足している	・「応用行動分析（ABA）」や「TEACCHプログラム」など、支援方法の理解が浅いまま実践している	・支援会議にて、氷山モデルを活用しながら、お子様の個性の特性に着目し、表面化していない背景要因にも配慮した支援内容の検討をチームで行う
3	お迎え対応が重なる時間帯には、申し送りがスムーズに行えず、玄関前で保護者の方にお待ちいただく場面が生じることがある	・職員が複数の業務を並行して行う必要があり、対応が遅れることがある	・混雑時には状況に応じた柔軟な対応を図り、保護者の方には車内待機をお願いするなど、職員間で対応方法の工夫や改善を検討していく